

釧路南ロータリークラブ会報

第4回 例会報告 2016.7.22 通算1640回

・点 鐘 佐藤会長



・誕生祝

奈良 清成会員 S46. 7. 23 (45歳)
福井 克美会員 S24. 7. 25 (67歳)



福井会員

・ロータリーソング

「我らの生業」



ソングリーダー 寺口 美由紀会員

・会長挨拶



皆さんこんにちは。来月の第1例会は駒形曙美ガバナー公式訪問例会となっております。先の事ですが、是非優先順位調節で時間を作って頂きたいとお願ひします。さて、今日から第32回くしろ霧フェスティバルが国際交流センター並びに耐震バース岸壁を会場にして日曜日まで開催されます。協賛・寄付・協力の新聞広告には、第7分区のロータリアンは勿論、間接的にも地域・管内のロータリアンも関わっていると思います。私も約10年前、前後5年間金曜日のスタートから日曜日のフェスティバル終了ま

・入会記念祝

高橋 康成会員 S61. 7. 25 (30年目)



で参加したことがあります。それは釧路管内唯一の硬式社会人野球チーム「ブレーブくしろ」というチームの支援のため、会場で芋団子と、フライドポテトを販売したのです。「ブレーブくしろ」という野球チームは平成10年、高校硬式野球・球児卒業後の受け皿として結成されました。現在道内14あるクラブチームとしてクラブ選手権を戦っています、相手はクラブチームとは言えもと大昭和製紙や王子製紙・新日鉄室蘭などの企業を離れたチームが母体の強豪です。クラブ選手権の上はJR北海道などが道代表やトヨタや日本生命などが東京ドームで日本一を争う都市対抗野球です。平成12年に有志により「応援する会」を作りクラブ結成の事務局次長として私も手弁当で、クラブ遠征費・用具・維持経費集めに奔走しました。軟式野球のボールが1個600円の所、硬式野球は1個1,300円とすべての道具が倍以上のため少しでも補助に充てようと、くしろ霧フェスティバルに出店したのです。発足当時は会員も300人くらい集まり、強い絆で結ばれたスタッフも多くできました。会員の皆様も色々団体に関わっていると思いますが、これが当時私の奉仕であり思い出の一つです。

・ 幹 事 報 告 木内副幹事



* 釧路市平和都市推進委員会より、釧路市民戦災死没者慰霊式並びに平和記念式のご案内が届いております。式典は8月15日(月)午後1時30分から栄町平和公園A面(噴水側)にて開催予定となっております。当日、献花を方は7月28日までに幹事まで連絡ください。

- * 8月5日(金)ガバナー公式訪問となっております。16時集合予定となっておりますので当日は、よろしくお願い致します。
- * 地区大会のご案内を回覧しておりますが、あらためて配信しますので、出欠確認よろしくお願い致します
- * 7月25日(月曜日)理事、役員会が18時30分、乃風にて開催されますので、よろしくお願い致します。

・ 委員会報告

親睦委員会 亀井親睦委員長

・ 本日のニコニコ献金

- 高橋 康成会員 入会記念祝として
- 奈良 清成会員 誕生祝として
- 福井 克美会員 誕生祝として



出席委員会 福井出席プログラム委員長



・本日のプログラム

「新入会員卓話」

担当 会員選考委員会

◆早津会員



みなさま、こんにちは。今年4月より釧路南ロータリークラブに参加させていただいております株式会社明作の早津壮史と申します。

本日は、卓話の機会を頂戴し、誠にありがとうございます。私が社長に就任してはや1年が経ちましたが、この1年間で感じた苦悩と、これからの心構え、決意について、これまでの体験を踏まえて、お話しさせていただこうと思います。はじめに、簡単な会社説明をさせていただきます。株式会社明作は、創立34年目の技術系の会社です。(カッコよく言えば金属加工業、簡単に言えば鉄工所です)

しかし、鉄工所と言っても、道内外のゴミ処理設備、上下水道設備、環境プラントなどの機器を製作したり、据付等も行っております。釧路市でいえば入江町の古川終末処理場や愛国浄水場、士幌町のバイオガスプラント、現在は日本製紙釧路工場のクラリファイヤと呼ばれる直径が5m、高さ7mもある大きな水処理装置も手掛けております。もともと明作は、私の祖父が設立した会社で、私は3代目になりますが、当時は社長に就任するということが自体が不安で仕方ありませんでした。不安だらけの中、昨年参加した北海道銀行殿主催の「道銀経営塾」は私の中で大きな“意識改革”をおこしました。道銀経営塾の受講期間は1年間で、月に1度か2度参加し、タナベ経営を講師に招き、「経営とは」をイチから学ぶ場でした。同期となる塾生は、道内企業の社長や重役で、ほぼ私と同年代の方々ばかりでしたが、そこで私は衝撃を受けました。私を含め、同期生は30人おりましたが、私以外のほとんどの塾生が「経営」

についてそれぞれの考えを持ち、社長や重役としての自覚や知識が備わっていたのです。圧倒されました。てっきり経営の素人が、経営のイロハを学ぶために参加しているものだと思い込んでいたからです。ところが、私以外のほとんどの塾生は、知識やスキルをさらに磨こう、もっと高いところに行こう、今の会社をよくしよう、そういった決意を持った塾生ばかりでした。(私の認識の甘さを痛感しました)私は、社長になるまで、得意先への営業や、工場の管理しかやってこなかった背景もあり、外部とは非常に狭い、限定的な範囲の交流しかありません。当然の事ながら、知識やスキルも限定的なものになっておりました。そのため、「あ、オレが最後尾(ビリ)だな」と。私はそのとき悟りました。いつもの悪いクセで、私の身体を劣等感が支配し始めました。まるで毒に侵されたようになり、自分のチカラを100%出せなくなります。このメンバーで1年間勉強するのか、と考えると、憂鬱で仕方ありませんでしたが、そんな中、ふと気が付きました。「これ以上順位が落ちないなら、上にあがるしかないよな」と……。それから1年が経ち、今になって考えてみると、私の中で、ふたつの“意識改革”が起こっていたことに気が付きました。ひとつは、「経営者として、まだまだ自分は無力である」ということを身を以て体験した。ふたつめは、「多方面に広がった“縁”により、視界が広がった」という事です。これらを“財産”と呼んでいいのかわかりませんが、「無力であることに気が付いた」ことで、経営者になるという事は、今までの実績や経験を一度すべてリセットし、今までとは違う道、違った目線で物事を考えるという事を、まさに身を以て体験しました。当初、他の塾生の高い自覚と知識に圧倒され、劣等感を持っていた私ですが、1年を通じて他の塾生も結局悩むところは同じなんだという事を知り、私だけじゃない、という安心感が塾生同士の間で一体感を芽生えさせ、あらたな「縁」も生まれました。異業種との交流により、限定的だった視野が広くなり、物事のとらえ方、自分とは180度異なった目線で物事を考える「物事の多面性」を知りました。肝心な経営についてよい成績で卒業はでき

